

授業概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業計画

第 1 回	言語学とはどんな学問か・言語学の歴史
第 2 回	音声学1 (どうやって音を作っているのか: 母音と子音)
第 3 回	音声学2 (どうやって音を作っているのか: 日本語の音と英語の音)
第 4 回	音韻論1 (どのように音を区別しているのか: いろいろな「ン」)
第 5 回	音韻論2 (どのように音を区別しているのか: 「雨」と「飴」のアクセント)
第 6 回	形態論1 (音が集まって意味のある言葉ができる: 派生語と複合語)
第 7 回	形態論2 (音が集まって意味のある言葉ができる: 日本語の動詞の活用)
第 8 回	意味論1 (言葉の持つ意味とは何か: 「走る」と「駆ける」の違いは)
第 9 回	意味論2 (言葉の持つ意味とは何か: 反対語について考える)
第 10 回	統語論1 (どのように文を作っているのか: 主語と述語、「象は鼻が長い」)
第 11 回	統語論2 (どのように文を作っているのか: 受身と使役)
第 12 回	統語論3 (どのように文を作っているのか: 日本語のいろいろな決まり)
第 13 回	語用論1 (どんな時にどんな文を使うか: 笑い話から会話のルールを考える)
第 14 回	語用論2 (どんな時にどんな文を使うか: 円滑なコミュニケーションのために)
第 15 回	授業のまとめと期末試験について
第 16 回	筆記試験

到達目標

言語学の基本的な考え方および用語を一通りマスターする。それによって、自分が使っている言葉について、自分で考えることができるようになる。

履修上の注意

講義形式ではあるが、言葉に対する「気づき」を大切にしたいので、積極的に臨んでもらいたい。日本語話者であれば、特に前提となる知識は必要としない。

予習・復習

予習は特に必要としないが、前の授業の内容は理解しているものとして進めていくので、一回一回、きちんと復習すること。授業の最後にポイントの整理を行うので、そこで提示された用語の意味などは、その都度、覚えるようにしてもらいたい。

評価方法

期末試験によって成績をつける(100%)。期末試験は、授業で学んだ知識を確認する問題とともに、言葉について授業を通して発見したこと、あるいは疑問に思ったことなどを自由に書いてもらう設問を含む予定である。

テキスト

プリントを作成して配布する。